

編集室から

令和三年。新年明けましておめでとうございます。旧年中は、大変お世話になり、ありがとうございました。本年も、引き続きどうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスに振り回された一年でした。公共のお仕事がほとんどを占めるため、大きな変動はないだろうと当初、高をくくっておりましたが、ほとんどの業務が次々と延期・中止などとなり、少なからぬ影響を受けました。それでも、さまざまな方々のお力添えを頂き、最小限に抑えることができたのは、有り難い限りで、感謝の言葉もみつかりません。改めて、普段のお付き合いの大切さが見に染みしました。

この状況が果たしてどのような形で収束するのか、見当も付きませんが、一日でも早くその日が来るよう、自らもできることを積み上げていくしかありません。

日頃、地域の共益・公益に関わるお手伝いをさせて頂いていますので、私益（自分の利益）しか考えられない存在に、あたかもサッカーでの相手チームのゴールキーパーの如く、立ちただけられることがあります。この度の現象も、協力しあえる人々の中で、ほんの一握りの「先が見通せない」存在のお蔭で、医療現場を始め、無残にも大多数の努力が水泡に帰そうとしているかと思うと、やるせなくなります。

経済とは、貨幣経済のことではなく、本来は「経世済民」を語源とする立志の言葉です。済民無き経世はあり得ないはずなのですが、どのように済民するか。そのために、どのように経世するか、という政策論議を、各界各層でもっと深めていく必要があると痛感しています。

21世紀も1/5が過ぎました。数年で四半世紀をも過ぎていきます。20世紀に想像された技術は幾つも現実化しています。一方で、政策の世界は、どれほど進化したのか。自戒です。（は）



のと
だらぼち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川島さんが「能登だらぼち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち
03-5537-3078
17:00~23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27
プラザ銀座ビル地下1階
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2021/01
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp

2021/01
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

謹賀新年

睦 月



白山比咩神社にて
by hama

↳糖尿病の内服薬(前半)↳

インスリンの解説から始まって、一連の流れとして一型糖尿病の話をしてきました。今回からは二型糖尿病に戻って、糖尿病の内服薬についてです。既に、内服している方もおられるかもしれませんが。大雑把なイメージをつかんで貰えれば幸いです。今やシエネリックが主流なので、参考までに一般名も添えてみました。先発品は製薬メーカーが付けた商品名で流通していますが、シエネリックは一般名(薬剤の化学構造に付けられた名前)です。プラス会社名で統一されているからです。一部には薬価も書いています。原価ですので、医療費が三割負担なら支払額もその三割です。歴史の古い順に並べて、今回は前半の四剤を解説します。ちなみに【印象】は、私の個人的な意見です。

①SU剤(一般名:グリクラジド、グリメピリド、グリベンクラミド)

【作用】膵臓のβ細胞をムチ打ってインスリンを出させる薬

【長所】最も長い使用経験があり作用は強力・一錠十円前後と薬価は安い

【短所】使いすぎるとβ細胞が弱る・用量を誤ると低血糖をきたす

【印象】インスリン不足の人が食事療法を守って少量だけ使うなら実に良い薬

②ビッグアナイド剤(一般名:メトホルミン)

濱の起業塾 廿一 『概論③』

前号では、六つの起業プロセスのそれぞれにおいて、対外的な面から、それを支え・進めるスタッフや外部人材・専門家の存在を整理した。それに続いて、今回は事業体・組織としての内部の熟度を上げるために支援を受け、活用すべき外部人材・専門家を整理する。

起業プロセスの前半:苗床の段階となる「立志」と「機会」、「機会」と「着想」では、第三者的な専門家というより、起業家自身のモチベーション・自己実現欲求や、知識ベース・興味の範囲が、途中結果に大きな影響を与える。イメージ(想像)ではないことは、起業(創造)することはできない。

外部の専門家は、起業プロセスの後半:マネジメントの段階で、大きな支援者となる。

「着想」と「試行」を橋渡す際、プロトタイプを試作するために必要な要素技術を持つコントラクト・マニファクチャラーと呼ばれる技術者の存在が必要となることがある。これは何も機械的製造業に限らず、特産品開発で大きなウエイトを占めるであろう食品加工業にも当てはまる。また、体験交流プログラムといったソフト的な起業でも、その体験の

漢方薬のような薬

【長所】過体重でも良く効き太らないので欧米では最初に使われる・一錠は十円前後

【短所】一錠の効き目が弱く短いので錠数が増える(最大一日九錠を分三)

【印象】「いずれ痩せて減らすぞ」と思いながら使うべき薬

③αグルコシダーゼ阻害剤(一般名:ミグリトール、ボグリボースなど)

【作用】小腸で炭水化物の吸収を遅らせる薬

【長所】食後の血糖上昇を抑える

【短所】腹満や放屁がやすい・内服は毎食直前

【印象】火を通した野菜を摂取できるなら本当は使う必要のない薬

④グリニド剤(一般名:シパグリニド、ナテグリニドなど)

【作用】SU剤の作用を短時間にして弱くした薬

【長所】食後の血糖上昇を抑える

【短所】内服は毎食直前

【印象】微妙な作用でも効果果の出る発症から間もない痩せた若い人になら有用な薬



【プロフィール】(いがき としお)金沢大学北浜寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とっても怖かった。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松でヌクヌクしています。

指導・インストラクションをする役割の存在がなければ成り立たないように、目指す事業の成立に必須となる要素技術を有する人の確保は、全く同じ意味である。

「試行」を経て「検証」へと移行するためには、本格的な事業体制を整えるために、原材料などの調達・生産体制の確立、さらにはそれらを支えるための従業員の採用・教育と労務、全体を回すための最も基盤的な役割である財務の検討が必要となる。これらをサポートする専門家は、バイヤー・リクルーター・労務士、税理士・会計士・キャピタリスト・金融機関、さらには全体を統括支援する経営コンサルタントなどと呼ばれる職種となる。

「検証」と「起業」を繋ぐには、資本家・経営者(=起業家)を始め、営業・生産・財務・総務など通常の企業組織と同様の役割・担当者のキャスティングが伴ってくる。

これら起業プロセス全体を通じて、最も重要な一方で、忘れがちなのは、メンターもしくは、伴走者と呼ばれる立場の外部支援者だ。起業家よりも少し早く同様の経験を積み、メンタリング的にも寄り添ってくれるような信頼が置けるメンターを、早い段階で得られたならば、その事業の成立確率はかなり高まることになるだろう。

福井の若者が創り、動かしている“地域密着型探究学習プログラム”に魅了されている。最高の学習機会を、大学生と社会人が高校生に提供するというもの。活動のプロセスの中で、習う高校生は短期間で殻を破り、育ち、教える大学生は逆に高校生から学ぶ。

興味のある方は、是非、次のリンク先をのぞいてみて欲しい。

【BEAU LABO Online】

<https://www.beauproject.net/beau-labo-online>

全国から志ある大学生を募り、彼らがディレクターとなって7つのラボ1を運営する。「国際問題」、「地域経済」、「観光」、「メディア」などのラボには、これまた全国から応募してきた高校生が数名ずつ加わる。そして、3ヶ月という短期間で各分野について学び、意見を交わし、アウトプットする。この間、各ラボはミーティングを重ねるとともに、統計データの分析、アンケート調査、社会人へのヒアリングなどで仮説の設定と検証を繰り返しつつ、中間プレゼンテーション等にてゲストからのフィードバックを得る。そして昨年12/26には3期の最終プレゼンテーションを終え、この1月から4期目がスタートする。

時節柄、募集からミーティング、ヒアリング、プレゼンテーションに至るまで、全ての活動はオンラインで行われる。オンラインのメリットは距離と時間の制約から解放され、全国の高校生が同じサイバースペースで学びを共有できること。デメリットは対面での細かなニュアンスが伝わりにくいこと。コロナ禍で現地調査が不十分になることはやむを得ない。

なお、オンライン活動によるプロセスやアウトプットの質の低下は見られない。逆に、Zoom、Slack、G Suite(ドキュメント、Jamboard、フォーム等)を使いこなすことで、対面の置き換え以上の効果を生じさせている。対面であったとしても、スタンドアロンの環境で各自がノートPCを抱えるだけでは、あまりにもブアだ。ネットワーク環境下においてSaaS2を最大限に活用することで、ディスカッションと共有、記録を、同時かつ効率的に進めることができる。細かなニュアンスの伝達は対面に遠く及ばないものの、様々なアプリの活用や運営面での工夫などによって、それに近づける努力がなされている。

私は運営側の社会人パートナーという位置づけで参加している。彼らは気付いていないかもしれないが、社会人もまたこの活動に参加することで学んでいる。関わる大人も成長しないと置いていかれる。

注1) 3期。4期は8ラボ

注2) Software as a Service. クラウド上で提供されるソフトウェアのこと

1泊2日無料移住体験ツアー。今年度若者世代で1位となった西条市ですが、なぜ人気なのか？調べますと5つの要因がありそうです。

- 1 1泊2日無料移住体験ツアーなど至れり尽くせりの移住者希望者向け政策
- 2 工業都市で求人数が多く、さらに市の一次産業への就職支援も充実
- 3 待機児童ゼロ、放課後支援の充実、中学生までは医療費無償化など子育て世代向けのサポートが手厚い。またICT教育環境が充実。
- 4 水道代が0円
- 5 すでに移住して定着している人が多く安心感があり交流機会も多い
- 6 温暖な気候や瀬戸内海がもたらす食の恵み

が要因としてありそうです。どの自治体もできるわけではありませんが、本気で「よそのもの」を受け入れる姿勢が伝わります。とはいえ10万人以上の規模となると、それなりの都市機能や娯楽施設もあると思いますので、割と若い移住希望者にとってもGAPをそこまで感じることなく生活できるイメージがあります。

では能登の自治体のような「小さなまち」でランキング上位の自治体は何を魅力として打ち出しているのか？今回“若者世代”で2位に入った島根県飯南町について検証したいと思います。飯南町は広島県との県境の山林が90%を占める人口5千人にも満たない小さな自治体です。そんな飯南町が移住者に人気な理由は

- 1 就農支援制度の充実と「半農半〇」で豊かな生活できる就農スタイル。
- 2 空き家の安価での貸し出しと、修繕に関する支援制度

特に目新しいものではないのですが、基本的な定住支援策を高水準で充実させているということが結果につながっているのではないのでしょうか。例えば5千人規模の町で移住支援相談員が4人いることもそれを体現していると思います。他の自治体では数万人規模の市でも2名程度が標準のようです。

あと気になったのが全体的に西高東低であるということです。その背景には温暖な気候が影響しているかもしれません。単に住みやすいということもあるでしょうが、温暖な気候では農業もやりやすく、特に栽培できる品種が豊富となります。就農希望が多い移住者にとっては、初心者でも働きやすく、かつ選択肢も多いという点において中国・四国・九州が人気なのかもしれません。

- さて来年1月に発行される「住みたい田舎ランキング」はどう変わるのでしょうか？
- ・新型コロナによる在宅ワーク拡大を受けて首都圏近郊の田舎が人気になるのでは？
 - ・小売業/飲食業を中心に大規模な失業者が増えたことで都市部から就農を希望する流出が増える？
 - ・地方の製造業では工場閉鎖やリストラもあり、新たな雇用の受け皿として好調を維持している半導体関連や持ち直しの傾向がある自動車関連の工場がある地域に流れる可能性がある？

等々推測の域は出ませんが、地方移住にとって新型コロナが機会になることは間違いないでしょう。各自治体においても地域産業や生活環境の魅力を発信するまたとないチャンスだと思います!!僕だったらどこがいいかなあ。もちろん能登は現実的な点で第一候補なのですが、気候が温暖で、山・海が近接関係にあり、応援できるおらがチームがある瀬戸内あたりの町がいいなあと調べていたら、愛媛県今治市がヒットしました。サッカー日本代表の監督もされていた岡田さんが今治FCというJ3チームのオーナーで、チーム作りを通して地域づくりに携わっているではないですか。魅力感じますね!!!(了)

『富士の国から ～大魔神のたび～』 由布院への旅(2020.11/21~23)
神奈川県南足柄市企画部・都市部・教育部参事 溝口 久

話をもとに戻す。深耶馬溪は切り立った岩々がダイナミックで見ごたえはある。過去に木々が伸びてしまい岩々が見えなくなってしまったらしく、景観復活のための作業をおこなったことの掲示がある。

昨年、中国で世界遺産になっている武陵源自然風景区の険しい峰が連なった絶景を見ていたこともあってさほどの感動が実はなかった。

玖珠インターから高速に乗り湯布院インターに降りた。宿に行く道中にある由布院幼稚園に寄った。長女が卒園した幼稚園だ。見た目、当時と変わった感じはない。

初日の宿にチェックイン後、由布院にいたとき以来親しくさせてもらっている井尾さんご夫妻が会いに来てくれた。今回はほぼ十年ぶりに娘たちに会わせたかったのである。さすがに、成長著しき時の変化に驚かれた様子だった。一風呂浴びた後に今晚の夕食を予約している山椒郎に出向いた。新江さんがわざと不機嫌そうな顔をした後に満面の笑みで迎えてくれる。「日本ではお客さんを崇めて機嫌を取るのが「おもてなし」です。でも、ヨーロッパではお客に機嫌はとりません。対等になって初めてできるサービスがありますね。ただ、日本には貫いて極めていく「道」の気持ちがあって、おいしさを極めようとする点は素晴らしいと思います。でも、極め過ぎるのもどうでしょう？野菜にしても世界的に規格が一番厳しいのは日本ですが、行き過ぎているところがあります。それを少し戻そうとするとき「地産地消」という言葉が生まれてくるように思います。」が「ゆふいん料理研究会」を主宰し、今の由布院の料理を先導した新江さんの言葉だ。

「今日は34種類の食材を使った料理で腹一杯にさせるぞ」と高らかに宣言。待ってました、もちろん昼は軽くしている。出された料理にすぐに箸を付けようとする「ダメダメQさん、ご飯は炊き立てが一番と思っているかもしれないけど30分経った頃がおいしい、寿司だって30秒は待ってね。」「日本酒、爛だって？とんでもない。」とシドウが入る。食に真剣に取り組んでいる証かな。明らかに氏のファンがカウンターに陣取る。お任せの料理が次々と攻めてくる。日本酒もチョイスされたものが出されていく。その内、大阪から見えている常連客が持って来られたワインのご相伴に預かった。18時に入ったが、時すでに21時を回っていた。満天の星空の元、宿への帰路に就いた。

翌朝は宿のレンタサイクルを借りて「フローラハウス」、現在は閉まってしまった「市の坐」、由布院駅周辺を廻った。

北陸の大きな古民家を移築した飲食店「市の坐」をやっていた井尾君は、由布院観光総合事務所で事務局長をしていた時に、新卒として雇った青年で、今ではこれまでの経験を活かしてJA全農で飲食店の立ち上げ、商品開発に力を発揮している。彼曰く「成功を導くことを完璧にすることはできないけど、失敗を避けることはできる」と。まだ40歳代だ、次のジャンプが待っているに違いない。

由布院駅に行く。久大線は今年7月に天ヶ瀬温泉を襲った豪雨で鉄橋が流されて以来不通になっている。このため、列車が駅に入ってくることは無い。でも駅周辺はやけに賑わっている。小生が由布院にいたころに比べ随分と整っている。駅前への侵入が一方通行に、歩道と車道がフラットになり、駅前スペースも広がった。磯崎新デザインの駅舎もよく見るとトイレが増築されている。そ、そして隣には坂茂デザインのツーリストインフォメーションセンターが建つ。ガラスボックスの中は森の中にいるような曲線を描く大断面の集成材が交差している。

唸るデザインだ。世界のお客を迎えるに相応しい鉄道の玄関口になったと思った。これって合併して由布市になったからできたんじゃないのかな、財政的なことではなくて、狭い中では突き抜けることは生まれにくいものだからだ。(つづく)

